

Q. 地域素材開発の視点と、それらを自作資料として作成する上での留意点は何か。



A. 児童の興味・関心を高める構成で、価値にかかわる学習内容が含まれている。

(1) 道徳の時間に使用する資料が備えなければならない条件

人間尊重の精神に叶う。特定の価値観に偏してなく、中立的である。

ねらい(道徳的価値や学習内容)が比較的分かりやすい。(分かりにくかったり、あまりにも分かりやすすぎたりしないようにする)

児童の興味・関心や発達段階に叶っている。

多様な価値観、見方・考え方が引き出されやすく(つまり、主人公が悩んだり葛藤したりしているなど) また、児童が一般に考えているのと別の観点や、同じ観点でも深くとらえなければならない場面や内容を含んでいる。

(2) 地域素材を開発する上での留意点

資料、文献などを正確に理解し、事実誤認のないようにする。

出来事等の「評価」や「解釈」は一つとは限らないので、留意する。

資料、文献等からの「孫引き」には留意し、できるだけ「原典」にあたる。

聞き取りによる場合は、対象者に、作成の意図やその後の取り扱いなどについて十分な説明と同意を得るとともに、最終的にできあがったものに目を通してもらう。

何よりも、「子どもに地域を愛する心を育てる」ことや「地域の方々と一緒に子どもを育てる」という学校の強い意図をもって開発する。

(3) 自作資料を作成する上での留意点

身近な事柄を取り上げることで、個人が特定され、特定の児童に対する批判的な内容が引き出される恐れがないような構成及び扱いにする。

身近な事柄を取り上げることで、道徳の時間が学級の諸問題を解決する学級活動の時間にならないような構成及び扱いにする。

自作資料中の個人名や事柄の内容・名前などが、地域や学級の実際の名前等と重ならないように配慮する。

教師が教えたことが強く出過ぎないようにする。(教師が教えたことが児童の考えたいと思うことに重なるとは限らない。児童の立場に立ってつくる)

発問や学習活動を意識しながら作成する。

挿絵や写真などを入れて、児童に理解されやすい内容とする。

記述内容・写真やイラストが著作権やプライバシー等に触れていないかどうか確認し、必要なら関係者の了解を得る。引用や参考文献等があれば、明示する。